

子供たちの成長を思う

年長児が修了（卒園）の日を迎えるまで、2月から数えはじめると残り31回の登園となります。年長児としての幼稚園生活を思う存分楽しんでほしいと思います。

楽しむとは、心が満ち足りる・自分の好きなことをして心を満足させる・将来に期待をかける・心が安らぐ・裕福になるとあります。幼稚園では、一人でじっくりと遊んだり、友達や先生と一緒に楽しさを共有してほしいと思うのです。「どうして?」「(ピカッと表情が輝き)わかった!」「できた!」「すごいねえ。」「おもしろい。」「もっとやりたい。」「一緒にやろう。」「う〜ん。難しいなあ。」「できないなあ。」「できるようになるまで頑張るぞ。」「またやろう。」等々。子供たちの気持ちのありようはいろいろです。

『おおきくなるっていうことは』。これは絵本の題名です。見開きのページに“おおきくなるっていうことは”の後に、「洋服が小さくなるってこと・新しい歯が生えてくるってこと・水に長く顔をつけられるってこと・あんまり泣かないってこと・前より高いところに登れるってこと・高い所から飛び降りられるってこと・飛び降りられるかどうか考えられるってことも大きくなるってこと・何でもかんでも食べたりしないってこと・シャンプーだっていやがらないってこと・おもしろいことがどんどん見つけられるってこと」とあり、まとめ的な部分では、『おおきくなるっていうことは自分より小さな人が多くなるってこと・小さな人に優しくなれるってこと。大きくなるっていうことはそういうこと。また一つ大きくなった。おめでとう。』と結んでいます。

文章をわかりやすくするために漢字を使用しましたが、絵本ではすべてひらがなで書かれています。大きくなることが具体的に簡潔な言葉で表されています。

3学期に入ってから幼稚園の子供たちの気持ちや行動からも、ずいぶんと成長の跡がうかがわれます。大きくなるということは、体重が増えたり身長が伸びるという単純なことだけではなく、人との関わり方や遊び、ものの捉え方や考え方が広がっていくこと、そして自分のことを考えられるようになることだと思います。

集団生活が初めてであった年少児も、その一つ上の年中児も、そして、もうすぐ1年生になる年長児もそれぞれが年齢に応じて成長してきています。この背景にあるものは、家庭と幼稚園の連携があるということと言うまでもありません。

園長 石川 久子